

のぞましい家庭教育のしおり

我が家の暗黙のルール ～週末の食卓はみんなで！～

「(母) 今日、学校どうだった?何かあった?」と2人の子どもに声をかけるのですが、返事は決まって「(中2息子) 別に、フツウ…」 「(高2娘) えっ?なんで?」です。

最近では、こんなやりとりが毎日続いています。数か月前までは、友達の名前が出てきたり、先生の話をしてくれたりしたのに…。また、一緒にリビングでテレビを見たり、ソファに座ってゲームをしたりすることも減り、自分の部屋で過ごすことが多くなりました。子どもが年齢を重ねるにつれて、どんどん離れていくような気がして寂しさを感じています。

それでも諦めずに、必ず一度はその日の学校の様子を尋ねるようにしています。すると、息子は「なんでそんなに知りたがるの?」とあからさまに鬱陶しそうな表情で言葉を返してきます。そんなやりとりも、週末だけは少し違います。いつものように息子と会話をしている、最後に父親が「だって知りたいじゃあ〜ん!」とおどけて割って入ってくるのです。さすがに息子も「えっ?」という顔をしますが、父親には逆らえないのか、仕方なく少しだけ話をしてくれます。私は、その話を膨らませることに必死です。私の質問には答えてくれないのに…と少々悔しさもありますが、家族がそろそろ数少ない夕食の時間です。せっかくの雰囲気壊すことはできません。

我が家では、子どもの成長とともに、一緒に食事をするのが少なくなりました。平日の夕食は、息子は祖母と2人で、娘と私たち夫婦は、学校や仕事から帰ってそれぞれの時間に一人で食べています。そのため、週末の夕食は、必ず家族そろって食卓を囲むようにしています。週末といえど、それぞれ予定が入っているとなかなか時間を合わせるのが難しくなります。それでも、「みんなで食べる」という暗黙のルールを守ろうとしてくれる子どもたちを見ると、根気よく伝えようとしている私たちの思いが伝わっているような気がしてうれしくなります。また、よいことがあったときだけは、必ず今でも、自分から話しかけてくれます。干渉されるのは嫌だけど、がんばって部活動やテストなどでよい結果を出したときには、認めてもらいたいようです。やっぱり、まだまだ子どもです。

幼少期に必死で『手をかけて』育ててきた子どもも、『目をかけて』見守っていた小学生期を終え、『気をかけて』やることしかできない時期になったと感じます。それでも、週末の暗黙のルールを大切にしている私たちの気持ちは、確かに子どもたちの心に届いている気がします。一緒に過ごす時間が少なくなっても、一緒に時間をつくろうと努力する親の姿は、必ず子どもたちに伝わると感じます。いつか、我が子も同じ思いをするのでは…そう思いを巡らせることが、今の私の楽しみです。



.....

一人で悩まないで、まず相談を

・刈谷市 **子ども相談センター** ～子どもに関する相談の総合的な窓口～

月～土曜：9時～17時(国民の祝日・年末年始を除く)

☎：62-6313 電話相談・来室相談

・刈谷市 **青少年電話相談** ☎：23-8888 月～金曜 9時～17時

・県教育相談 **こころの電話** ☎：052-261-9671 10時～22時

